夕刊 磐城時報

廿九日

福島縣平市鍛冶町十四 編輯兼發行人 岡田弘成
福島縣石城郡平町鍛冶町十四 印刷所 加納活版所
福島縣石城郡平町鍛冶町十四 發行所 磐城時報社
一部金貳錢 一ヶ月金卅錢
廣告料一行十二字詰五十錢
日刊（日曜祝祭日）翌日休刊

東北振興會社の年賦漁船の申込み

本縣漁業に最適のもの

東北振興々業會社の事業中船に一層適するものと見られて來た結果で、なほ右以外の地方からその申込みがいに期待し早くも左記の借受申込みが縣商工水産課には語る。

この建造費は船体と機艤とを合して一噸四百圓位であらうから一隻百噸とすれば四萬圓を要するわけである。從來の實驗に照せば本縣では金華山沖二百浬位の漁場へ出るのであるから七八十噸（百五十馬力）の船は最も適當で、この程度なれば如何に遠洋へ出ても安全であり又經濟的であるとされてゐる。

受付けられた。

一、江名漁業組合約五隻
一、四倉同上　五隻
一、小名濱同上　五隻

而も右は百噸（百五十馬力）程度のもので殆ど全部鰹漁業に使用するものである。これは最近の漁況に徴し小型漁村程同漁業に適し殊に經濟的である事實に徴しこの程度の漁船が本縣の鰹漁

一徳會社のインチキ振り曝露

仙臺市の本店は古物商が只一人

既報＝細民階級の血の出るやうな金をしぼり取つて平署に擧げられた一徳合資會社平支店長白石隆男（五五）は引續き平署で取調べ中だが、何せ長い事とてその被害額も未だ判然としてゐないが、之亦細民階級を食ひ盡した揚句其後資本金五千圓と稱して同市柳町に一徳合資會社を組織、平支店は一昨年二月設けられ、この外四倉、湯本、茨城縣大津町、湊町、日立、磯原等にも支店或ひは出張所を設け地方からサン〳〵捲き上げてゐたもので、最近インチキ振りがバレかゝるや新たに仙臺に東華合資會社創設を目論んでゐた。

尚ほ一徳會社の本店とは有名無實のもので古物商の大山一郎といふ男に情を明かし同人宅に小さな本店の看板を掲げ最近ではそれを押ひ入れにしまひ込んでゐた始末である。

既報＝細民階級の血の出るやうな金をしぼり取つて平署に擧げられた一徳合資會社平支店長白石隆男（五五）であるモーリス式の福德會は引續き平署で取調べ中だが、何せ長い事とてその被害額も未だ判然としてゐなかつたが、直ちに之れが姉妹機關を仙臺市鍛冶町に組織した揚句其後資本金五千圓

平町を三方部に分け完全な防護團

委員全部決定

今秋の防空演習に備へる平町防護團結成協議會は二十五日開き警防、工作、衞生配給、運輸の諸般に亘る平町非常變災興務規約を制定したが、これは單に今秋防空演習のみでなく今後同町が一朝有事の際に適用する永久的なものである。防護委員は左の諸氏を推薦した。

縣立學校長、小檜山久作　正木貞二郎、矢野泰次郎　▽小學校　篠山廉、千葉右近、赤津千里▽平署長柴田鶴作、同警部補猪狩晃義、齋藤々三、長澤代瀬▽消防組頭井上茂作▽青年團長大嶺庫▽平驛長長山崎花郎▽大日本電力平營業所長中島正雄▽平郵便局長佐藤守節▽在郷軍人分會長藤井一▽在郷軍聯合分會長藤田榮助▽助役酒井寅之輔▽收入役西野源次郎、外町會議員全部。

なほ防護團は町内を三方部に分けて結成することになり二十七日第三小學校で防護團員指導員百餘名が磐中配屬教官大井川中佐の講習を受けた、各團範圍及び正副團長は

▽東部　白銀、四丁目、南町、大町、十五丁目以東（團長大間喜繁、副團長長岡田健吉）
▽西部　搔槌小路、田町古鍛冶町、新町以西（團長青天目源一郎、副石坂一雄
▽北部　東部、西部を除く全部（團長鈴木良平、副鈴木友光。

丑の日に寶探し

四倉海水浴場宣傳部にでは過般、自動車にて福島一郡山、二本松、本宮、矢吹、須賀川、白河、石川、三春等の都市に宣傳を行つたことは既報の如くであるが、尚明三十日は土用の丑の日にあたるので同町海岸に於て寶探しを行なふ筈で目下準備中である

賞品は山の如く、午前十時より十一時迄の間一般浴客の慰安として行なふ由である。

昭和人絹工場の復興順調に進む

試運轉の成績良好

石城郡錦村昭和人絹工場の復興工事は極めて順調な進捗を見せてゐる事既報の如く約二週間の試運轉成績は豫定の九月より幾分早い見込みで從つて植田、錦の兩町は再び人絹景氣が踊り出した。

一方募集中の男女工二千名も今僅でそれに達する處へ漕ぎつけたので工事の完了は豫定の九月より幾分早い見込みで從つて植田、錦の兩町は再び人絹景氣が踊り出した。

噸の設備を整へつゝあり、

連日の暑氣で四倉濱大當り

けふは平美妓乘込む

四倉濱は連日の暑で相當な人出で賑はつてゐるが、今二十九日は田町美妓連の華やかな一團が乘り込み更に目は翼上起立飛行、翼間歩行飛行、繩梯子吊下飛行、模擬都市爆破等で、參加飛行家は宮城縣出身本邦最初のパラシュート冒險曲技飛行の權威日野俊雄氏、機關士は平商業學校出身の館內清氏、飛行士林茂代、田中近美兩氏パラシュートは茨城縣鮮田高女出の武田喜久子嬢及び札幌高女出の松浦八千代嬢である。

尚日野氏及び松浦嬢は石城郡南各學校の講演中で又田中飛行士及び館內機關士は三十日平町から茨城縣大津町間の低空飛行をなす筈。

八月一日飛行競技

航空思想普及の飛行機曲技大會は來月一日午後一時から石城郡錦村大倉海岸に於て開催する。當日は縣社熊野神社の祭禮で、夜は鮫川橋畔に流燈があり非常な雜踏を豫想されてゐる。曲技種

陸軍勝つ

對小名濱校戰

小名濱町に滯在中の陸軍自動車學校幹部候補生と、同町小學校職員チームの籠球戰は二十八日小學校で行ひ三七對二六で、陸軍チーム勝つ

▲劍道土用稽古

四倉警察署の土用稽古は、來る三十一日より向ふ六日迄一週間行ふことに決定し毎日午後二時より、同四時迄二時間にして一般參加者も觀迎すると

養鷄室で青年自殺

渡邊村宮作蛭田壽（二六）は二十六日夜八時頃自宅脇養鷄監視室でカルモチン自殺を遂げた原因は神經衰弱である。

災害豫防の映畫會

縣保安課では災害豫防のため濱通りの重なる工場で之れに因んだ映畫會及び講演會を開いて居るが、二十八日縣から石坂技手外一名が來郡、湯本町白煉瓦工場で行ひ、二十九日は四倉町磐城セメントで行ふ。

二人連れで無錢飲食

高久村下高久農鈴木高雄（四三）は二十四日夜平町南町料理店友の家方で一人の男と四圓五十錢の遊興をなし勘定となるや難癖を言つて支拂はぬので平署に突き出され、他の男は早くも逃走した。

夏＝夏＝夏
清涼衣
海水浴衣
特價
奉仕
平四
ヤルツ

海水着
水着をはじめ海水帽。浮袋。其の他精新な用品
正
中野洋品店
平二・電五三

牛肉賣出し

土用うし日（三十日には）

ヒレ　六〇錢　上肉　四〇錢
ロース　五〇錢　並肉　三〇錢

其肉はよく、其値も安き賣出しであります。
夕刻は混み合ひますから電話での御用命は……
御早く御願ひ致します。

平町田町
三二三肉店
電話三二三番

暑中御伺ひ

丑の日大賣出し

毎度御引立を蒙り難有奉謝ます。
吉例により三十日（土用丑）大勉強
大賣出し致します。

大蒲焼
うなぎ丼

松本樓
電話一一三番
【出前迅速】

吉例土用丑

牛肉大賣出し

三十日土用丑

滋養豊富な牛肉を是非

平町田町
石川亭
電話四十三番

吉田眼科醫院

平町紺屋町（電話六八番）

御挨拶

酷暑を迎へます折柄皆々様の御健康を御祈り申上げます。
扨で私儀水野化粧院を開催致しましてから恰度今年で七周年を迎ひました。
微力の私共では到底迎へ得さる永い歳月で御座いますが、これ偏に皆様の御引立によるたまものと厚く御禮の言葉を申述べる次第で御座います。
今度これが記念ご皆々様への一層の御努めのためにカゾン理容器一臺を備へつけました
この理容器具は近代美容術の機械化で御座いまして御使用後の御滿足は決して申迄もない事と固く御誓ひ致す次第で御座います。是非一度御試しあられます事をお願ひ致しますと共に七周年を迎へるに當り御最負の皆々様分に御挨拶申上げる次第で御座います。
昭和十一年七月

平驛前
水野化粧院
主水野冬子
電話（營業所六七八番　自宅四軒町水野商店五二五番）
御得意の皆々様方に

眞のビールの味は

樽詰サッポロビール

お蔭を以て大好評を博してゐます。

小料理
たてん
平
電話二六三番

科外專門

X光線科

入院應需

平町南町
上田外科醫院
電話一二九番

カクテール
イワキタビヂヂン352
レストラン サロン

四倉海水浴場開き

七月十五日各店一齊開業

◎各種の運動具設備（角力、ブランコ、スベリ臺、其他）
◎催し物（煙火、寶探し、電氣蓄音器）
晝を欺く海岸の電飾ボンボリ數十燈點火
波の交錯夢見る様な……夜の海！
—（夜間開店）—

◎海水浴は是非四倉へ
大衆向に値下斷行

四倉海水浴場組合
（築港方面ヨリノ順）
竹松賣店
清水屋賣店
大平館
金さや（別名メジロ）
初音賣店
新玉屋
池田屋
米好賣店
なべや
伊藤賣店

平町字南町
根本産婦人科醫院
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番

手術室完備
入院隨時

理髪　東京

平町三丁目警察署通り

親切は「理髪・東京」の出發点
誠實は「理髪・東京」の生命線

新設
産婦人科
平町田町
醫學士黑澤廣

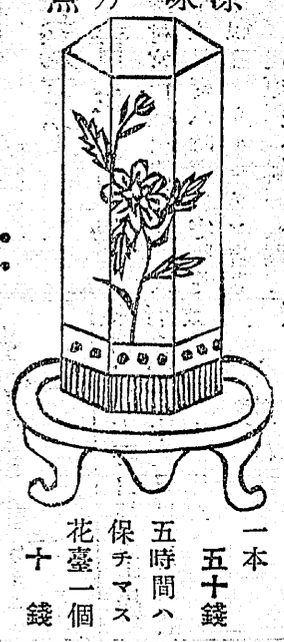
外科
內臟外科
エックス光線科
院長安齋徹

入院隨意
安齋醫院
電話四七五

氷は會社!!!

量目正確　配達迅速
電話三三八・三三六へ
平製氷直賣部

ベチイアイス
小型花氷發賣



涼味万点
一本五十錢
五時間ハ保チマス
花臺一個十錢
贈答用ニ好適ナ三本【一圓三十錢】券ノ商品券御利用下サイ。

弊院儀今般都合により三丁目元郵便局裏川岸通りへ移轉仕り從前通り診療に從事仕候間右謹告仕り候

七月廿五日
田町五番地
明雲堂眼科醫院
新妻幸之助
電六六九番